

学校評議員会 議事録

校名	大阪府立水都国際中学校・高等学校
校長名	太田 晃介

開催日時	令和8年3月17日(火) 18:00～19:00
開催場所	大阪府立水都国際中学校・高等学校(新校舎)2階会議室
出席者(委員)	國守正二、佐々木純也(オンライン参加)、菅野正嗣、蘇美花(オンライン参加)、福井崇之、藤本哲
出席者(学校)	太田晃介、ジョン・ボディング、佐藤吾朗、大山達也、日出裕加里、林健太郎、山根一毅
傍聴者	なし
意見聴取に係る資料	資料1～資料6
備考	

議題等(次第順)	
1. 校長挨拶	
2. (1) 令和7年度第2回学校評議員会議事録確認 (2) 令和7年度の「学校経営計画」(評価)について(中学校・高等学校) (3) その他	
3. その他	
山根 挨拶・閉会	
1. 校長挨拶(太田)	
<p>・この1年を振り返り、学校名のとおり、水都国際として海外との連携プログラムを数多く推進できた一年であったとの総括があった。あわせて、保護者との連携強化を進め、次年度より「水都保護者の会」発足に向けた準備も予定どおり進んでいるとの報告があった。進路面では、京都大学、神戸大学 など難関大学への合格者も出ていることが紹介され、1年間の助言と支援に対する謝意が述べられた。</p>	
2.	
(1) 前回議事録確認	
・前回(第2回)の議事録について内容の確認を行い、異議なく承認された。	
(2) 令和7年度「学校経営計画」(評価)について	
ア. 中学校における令和7年度学校経営計画の評価	
<p>・授業満足度は91.3%となり、目標を達成した。一方、授業外学習時間は目標値を下回っており、今後は自己管理能力の向上に取り組む。</p> <p>・IB教育の推進については、HRでの啓発実施はなかったが、高校IB生による説明会を年2回実施した。保護者・中学3年生対象のIB説明会は目標を達成した。</p> <p>・英語教育では、CEFR B1レベルまたは英検2級達成率が49%となり、「おおむね達成」と評価した。大会・コンテスト受賞者割合は目標20%に対し16%であり、今後さらなる周知徹底を図る。</p> <p>・教育環境整備では、個別教育支援計画の作成・実施率は80%(目標100%)であった。一部家庭において合理的配慮の希望がなかったことによるものである。ケース会議は12件実施した。</p> <p>・開かれた学校づくりについては、保護者の会が正式に発足し、活動も活発化している。次年度は保護者の会主催による受験トークセッションの実施を予定している。</p>	
イ. 高校における令和7年度学校経営計画の評価	
<p>・学力向上については、退学者割合10%以下を維持した。授業外学習時間については定義に課題があり、一部目標未達となった。</p> <p>・IB教育では、卒業生平均スコア34.2ポイント、フルディプロマ取得者全員という良好な成果が報告された。IB生構成人数(目標40名以上)は未達であったが、令和8年度は45名を超える見込みである。</p> <p>・国際交流では、海外研修旅行を4回実施し、約170名が参加した。海外からの訪問生徒約200名を受け入れたほか、交換留学提携校は2校となり、他国との協議も進んでいる。</p> <p>・進路指導では、国公立大学合格者36名(前年超)、海外大学合格者24名(3月3日時点)となった。日本学生支援機構 海外給付型奨学金獲得に向けた指導体制を整備した。令和10年度までに、保護者対象進路説明会を各学年で年2回以上実施することを新たな目標とする。</p> <p>・教職員の働き方改革については、退勤時刻を18時30分までとする取組が概ね定着した。</p> <p>・開かれた学校づくりについては、地域・各種団体との協働件数が100件を超えた。</p>	
3. 意見交換及び助言等	
授業満足度調査と授業評価について	
<p>・授業満足度調査は、4段階評価のうち「大変満足」「満足」を肯定的回答として集計している。これとは別に、学期末には授業評価を実施し、生徒自身の振り返りも含めて管理職および教科主任が内容を確認し、各教員へフィードバックを行い改善につなげている。</p> <p>・授業理解に課題のある生徒については、模擬試験実施の都度、担当教員がデータを分析し、対象生徒を把握したうえで課題提示等のフォローアップを行っている。</p>	
IB生と非IB生の満足度・モチベーションの差について	
<p>・現時点では、IB生と、IB進学を希望したが選抜基準に満たなかった生徒(10～20名程度)との授業評価比較は実施していない。授業評価上、大きな差は見られないものの、選抜を経て入学しているIB生の学習意欲は高い傾向にあり、非IB生のモチベーション向上が今後の課題であるとの認識が示された。</p>	
海外大学進学実績におけるIB生と非IB生の割合について	
<p>・海外大学進学希望者はIB生が大半を占め、概ね8対2の割合である。奨学金(JASSO等)の獲得実績についてもIB生が多いが、IBスコアが選考上評価される側面があるためとの説明があった。</p>	
公立校としての水都国際の位置づけについて	
<p>・水都国際は、公立学校として質の高い教育を大阪府の高校生・子どもたちに広く提供することを第一の目的としている。私立学校と比較されることも多いが、IB教育を導入しつつ経済的負担を抑えられる点、国際的な教員が多く英語使用機会が豊富である点を、今後も特色として発信していく方針が示された。</p>	
4. 閉会	
<p>中学校・高等学校それぞれの次年度計画については、現時点で未確定部分もあるが、本日出された意見を反映し策定を進めることを確認した。評議員からの貴重な意見を踏まえ、学校経営計画を作成していくこととした。</p>	
最後に、運営法人担当理事の山根より、評議員会への謝意が述べられるとともに、生徒が満足して卒業していくことの重要性が改めて確認された。次年度の学校運営への協力を依頼し、閉会した。	

次回の会議日程	
日時	令和8年 5月(未定)
会場	大阪府水都国際中学校・高等学校(新校舎) 2階会議室